助成番号 073122	6－2

研 究 成 果 報 告 書

（国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿）

研究テーマ（和文） AB	わが国企業における環境業績測定システム利用の決定要因と効果に関する研究				
研究テーマ（欧文） AZ	The antecedents and consequences of environmental performance measurement and evaluation systems in Japanese manufacturing firms				
研究代表者	カタカナ CC	姓)ｶｼﾞﾜﾗ	名)ﾀｹﾋｻ	研究期間 B	2008～ 2009年
	漢字 CB	梶原	武久	報告年度 YR	2009年
	ローマ字 CZ	KAJIWARA	TAKEHISA	研究機関名	神戸大学
研究代表者 CD 所属機関・職名	神戸大学大学院経営学研究科・准教授				

概要 EA （600 字～800 字程度にまとめてください。）

2009 年 3 月に東証 1 部上場の 6 業種（食品・化学・機械・電気機器・輸送機器・精密機器）に属する製造企業を対象に郵送質問票調査を実施し、わが国企業における環境業績測定システムの現状を評価するとともに、その決定要因および効果について分析を行った。アンケート調査の集計・分析結果より、次の点が明らかになった。

まず、環境業績評価システムの利用について、使用する環境パフォーマンス指標、報告頻度、業績評価や報酬制度への利用方法について、企業間や業種間に大きな多様性がみられた。また、環境業績評価制度を導入している企業は、全回答企業１６２社中４３社（約 27.5%）であった。環境業績評価制度を導入している企業は、地球環境への関心の高まりを事業機会と見なす程度が高く、技術革新や品質管理の能力が高いことが明らかになった。また、分析の結果、環境業績評価制度を導入している企業では、環境パフォーマンス指標に対する満足度が高いが、環境パフォーマンス自体については必ずしも高いわけではないことが判明した。より具体的に、CO2 排出量や化学物質排出量等の環境負荷の項目に違いが認められない一方で、顧客の獲得や優れた従業員の獲得など企業の評判に関わる事項について、環境業績評価制度を導入している企業の方が高いスコアとなっている。

上記に加え、環境配慮型製品開発活動における業績測定の役割について予備的な分析を行った。分析結果から、投資家の環境関心度が高く、環境スタッフの影響力が高く、またＬＣＡを実施している企業では、リサイクルコスト、廃棄コスト、回収コスト等の外部環境コストを製品開発活動において検討する程度が高いことが明らかになった。また、外部環境コストを製品開発活動において配慮することは、環境配慮によるコスト増を抑制し、環境パフォーマンスとコストパフォーマンスを両立するための革新を生み出す効果があることが明らかになった。

キーワード FA	環境パフォーマンス指標	環境業績評価	環境コスト	原価企画

（以下は記入しないでください。）

助成財団ｺｰﾄﾞ TA						研究課題番号 AA									
研究機関番号 AC						シート番号									

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題GB	環境パフォーマンス指標の内部利用の現状と研究課題							
	著者名 GA	梶原武久	雑誌名 GC	會計					
	ページ GF	575～586	発行年 GE	2	0	0	9	巻号 GD	第 176 巻第 4 号
雑誌	論文標題GB	第 5 章　環境業績評価を支援する環境管理会計							
	著者名 GA	梶原武久	雑誌名 GC	環境経営意思決定と会計システムに関する研究					
	ページ GF	72～95	発行年 GE	2	0	0	9	巻号 GD	
雑誌	論文標題GB	環境配慮型設計と原価企画：サーベイ調査に基づく予備的考察							
	著者名 GA	梶原武久・朴鏡杓・加登豊	雑誌名 GC	国民経済雑誌					
	ページ GF	11～28	発行年 GE	2	0	0	9	巻号 GD	第 199 巻第 6 号
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	
図書	著者名 HA								
	書名 HC								
	出版者 HB		発行年 HD					総ﾍﾟｰｼﾞ HE	

欧文概要 EZ

This study examines the antecedents and consequences of use of environmental performance measurement and evaluation systems by using survey data collected from Japanese manufacturing firms. This study shows that there are great diversity in measurement and use of EPI (environmental performance indicators) among Japanese manufacturing firms. The results show that firms with high degree of strategic emphasis on environmental issues, innovation capabilities and quality management capabilities are likely to use EPI to evaluate their managers' performance. This study also shows that environmental staffs are more satisfied with their EPI in the firms with environmental performance evaluation. The results suggest that adoption of environmental performance evaluation systems is associated with corporate reputation, but not with environmental performance.

In addition, I study the roles of the performance measurement in the environmental product development process. Especially, I examined the determinants and consequences of use of environmental costs information in the product development process. The results suggest that the use of environmental cost information in the product development process may contribute to overcome the trade-off relationships between cost performance and environmental performance.